

コープ未来（あした）の森づくり基金の市民参加型環境保全活動

生活協同組合コープさっぽろ

<取組の概要・特色>

「コープ未来（あした）の森づくり基金」は、組合員一人ひとりの環境への意識が森づくりへとつながる仕組みを目指し、平成20年7月に設立されました。コープさっぽろのお店でレジ袋を辞退すると、0.5円が基金に積み立てられ、①全道14カ所の「コープの森」、当別町「道民の森（Fの森）」での植樹や育樹、②森づくりワークショップ、③全道10地区での森の観察や散策、木育、環境施設見学などの「森とのふれあい企画」、④森づくりや木づかいに取り組む活動や団体への「森づくり助成」、⑤森づくり団体と学び交流する「北海道の森づくり交流会」の開催と調査研究活動など、北海道の森づくりに広く役立てられています。

毎年開催している植樹祭では、参加する市民の中から「あすもりサポーター」を募り、「森づくりワークショップ」を立ち上げ、森について学びながら、森のデザインやどんな樹種をどのように植えるかを話し合い運営する、市民参加型の森づくりに取り組んでいます。こうした活動を通じ、将来の森づくりを支える市民や新しいリーダーが着実に育っています。

■平成27年度の実践例

平成27年度は10カ所の「コープの森」で植樹祭を開催しました。植樹後には、しいたけのほだ木打ち体験、木製オリジナルマグネット作り、近隣の温泉入浴、施設見学など各地区で特色のある行事を企画し、参加者からも好評でした。

また、毎年バス5台・約300名で「植樹祭」を行っている「道民の森（Fの森）」では、「森づくりワークショップ」のメンバーが今年はどこに何を植えようかと、昨年からFの森を歩き、ワークショップで検討し、今年のゾーン別テーマを「天ぶら」「お花見」「頼もしい木」「針広混交林」「低木」と計画し、オヒョウ、タラノキ、エゾヤマサクラ、ミズナラなど計20種1000本を植樹しました。植樹後は植樹地を見渡せる丘から全員で「故郷」を合唱し、「森のビンゴ」を手に森の探検も行いました。丸い葉っぱ、抱えきれない大きな幹などを探して森を観察するなど、老若男女が集い楽しみながら森の大切さを学び、森づくりを行いました。

サポーターに配布する「あすもりサポーター通信」は第35号まで発行しました（A3両面、現在年4回発行）。広く一般市民に向けた広報冊子「モリ*イク」を年2回発行し（Vol.10迄発行）広く配布しています。このような森づくり活動のなかで、森と環境の大切さが広く市民に広がり、それを伝える市民の輪も広がっています。



（第8回コープの森植樹祭の参加者とスタッフ）

<推奨理由>

レジ袋の辞退という一人ひとりの小さな行動を「森づくり」という目に見える環境保全活動に結びつけることで、環境保全の意欲の増進を図っています。また、植樹祭の運営や企画に市民が参加できる仕組みをつくることで、「環境保全意識を持ち主体的に行動できる人づくり」に積極的に取り組んでいます。